

全構協・中国支部

全構協幹部と懇談会

外国人受け入れなどで意見交換

全国鐵構工業協会の中国支部(支部長 山本泰徳・広島県鉄構工業会理事長、ステントス社長)は3日、広島市内のホテルニューヒロデンで全構協幹部との懇談会を開催した。

当日は全構協から米森昭夫会長(ヨネモリ会長)、辰巳功専務理事、大橋利勝



懇談会のもよう

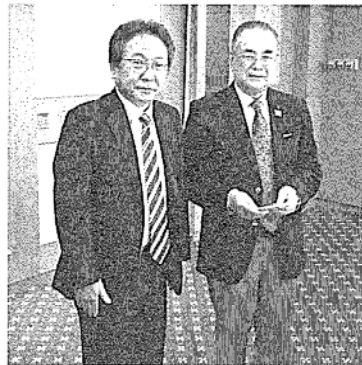
も含めて活発に意見交換し、有意義な会とした」とあいさつした。

続いて米森会長が各委員会やWGの活動について説明。外国人雇用や人材確保、女性雇用推進、超音波探傷(UT)レベルI取得支援などの取り組みについても紹介し、「今後も皆様の意見を聞きながら事業を進めて

いきたい」と述べた。

懇談会では、①外国人技能実習・特定技能制度への対応②働き方改革への対応③景況変動への対応④若手社員のスキルアップ(資格取得に必要な実務期間の緩和など)⑤組合の運営効率化(共済事業の推進対策など)―

―等、さまざまな分野で意見が出された。また、当日は米森会長の旭日小綬章受章に際し、受



中国支部を代表して山本支部長(左)から米森会長へ受章祝いを贈呈

章祝いを支部として贈呈した。

●：支部会を開催 意見交換会に先立ち開催した支部会では、今後の事業計画について協議。11月27日にホテルニューヒロデンで支部会と同日開催する共済推進会議で提案する共済事業者に対する意見・要望内容などを確認した。また、各県の事業状況のほか、働き方改革への対応(労働時間管理)や事業承継などの課題についても意見交換した。